

作物別経営指標プラン

【いちじく（作型・露地）】

1 対象経営の概要

保有労働力	2 人				
経営耕地面積		対象品目	面積	その他の作物	面積
田					
畑		いちじく	20a		
樹園地					
草地					
(うち施設)					

土地 利用 体系	作目	面積	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	いちじく	20a	1年目		★	●	●	■						
			2年目以降			●	●	■						
凡例	★定植 ●芽かき：不要な芽の除去 ■誘引：支柱固定 収穫 管理：防除・草刈り・追肥・せん定等													

2 収益性

始めたばかり

【10a当たりの収量】

イチジク 1,500kg

【2人で出来る面積】

イチジク 20a

年間収入 110万円

【面積拡大】

ハウスいちじく栽培による
出荷時期の長期化で収益
アップ

【出荷単価】

パッケージセンターを利用
することで、大規模経営が
可能

年間所得：500,000 円（年間収入 1,100,000 円－総経費 600,000 円）

経費の内訳（10 a あたり）

肥料代 : 80,000 円

農薬代 : 100,000 円

動力光熱費 : 20,000 円

諸材料費 : 100,000 円

10a 当たり経費 : 300,000 円

20a 当たり経費 : 600,000 円（300,000 円×2）

3 前提条件

農地（土壌）	日当たり良好な農地、ネコブセンチュウが少ない農地 土質は問わないが、土質に合わせた畝間、肥料等の調整が必要 水害に弱いので水はけのよい農地
茶転換	可能 茶園は酸性土壌（pH4.5 前後）のため土壌改良は必要。 好適 pH は 6.5～7.0 傾斜地は作業性が悪いため段切りが必要。
複合経営	可能 収穫時期がずれるイチゴとの複合経営が向いている。 （収穫時期：イチゴ 12～4 月、イチジク 8～11 月）
拡大可能性	あり 収穫期・出荷期に人を増やすことで規模拡大が可能 ハウスいちじく栽培による出荷期間の長期化により収益性が向上し、パッケージセンターを利用することにより、規模拡大が可能。
持続可能性	あり 木を植えてから収穫できるまでの期間：3 年 収穫できる期間が 10～14 年と長く持続可能性が高い。 高単価（約 960 円/kg）
収益までの期間	3 年
販路	JA 遠州夢咲 自己開拓（ファーマーズマーケット、EC サイト等） 6 次産業化しやすい。（生産から加工販売） 取組事例）ジャム、ワイン、ドライフルーツ、化粧品
初期投資	10a 程度の場合一般的な農業用資材（ワイヤー又はイボ竹）、予冷用の冷蔵庫や防風ネットが必要。 30 万円～150 万円（自分でネット施行をする場合）